



タンク(貯水槽)の点検、清掃について

～タンクの定期的な清掃を～

普段、あまり意識せずタンクの水を使われていると思いますが、定期的な点検や清掃をされているでしょうか？ もし、台風等の強風でタンクのふたが飛ばされたり、劣化のために通気管の防虫網等に穴が開いたりした場合、タンク内に異物が混入したり、太陽光で藻が発生したりします。

また、タンクへ給水している水道管が古い場合、管内部のさびがタンクの底へ溜まる場合があります。この機会に、年1回程度のタンクの点検を行うように見直されてみてはいかがでしょうか？

また、局では水質維持の面から水圧が十分ある地域や建物に対して、タンクを廃止した直結給水方式を推奨しています。

※貯水槽の容量が10トン（10m³）を超えるものについては、水道法により年1回の清掃及び検査機関による管理の状況に関する検査を受けることが義務付けられています。



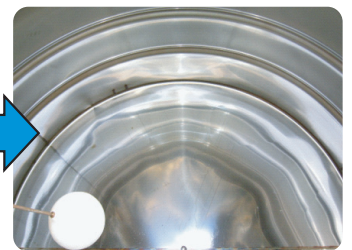
清掃前



清掃後



清掃前



清掃後

お客様からのタンク清掃に関する質問

Q

先日、自宅のタンクを5～6年ぶりに清掃したのですが、藻が発生していました。タンクのふたは閉まっていたのですが、なぜ藻が発生するのでしょうか？

A

タンクのふたが閉まっても、タンク上部に亀裂がある場合や通気管、オーバーフロー管の防虫網が破れている場合には外部から虫や鳥などの異物が入り込む可能性があります。それらの排泄物から藻が発生し、さらに太陽光がタンク内面へ差し込むような状態では繁殖を助長することになります。こういった状況を防ぐためには、タンクの定期的な点検と清掃が必要になってきます。

また、通常の水道水には滅菌作用のある残留塩素が一定量入っていますが、水の使用量に対してタンクの容量が大きすぎて水が滞留する場合には、この残留塩素が抜けやすく、菌類が繁殖してしまう危険性もあります。

局が安全な水を提供していても、タンクが汚れていては水質的には良くありません。

沖縄は過去に断水が多かったため、タンクの設置が当たり前のようになっていますが、断水も平成6年からはありません。局としては、安全な水を直接利用できる直結給水をお勧めします。

※直結給水方式とは、水道管の水圧を使って、タンクを通さずに水道管からの水を直接蛇口まで給水する方式です。

お問い合わせ先
給排水設備課

☎941-7810